

子どもたちと表現を楽しもう

講師：深見友紀子（京都女子大学教授）
赤羽美希（音楽家）
正木恵子（打楽器奏者）
深澤孝史（美術家）

1. 表現のおもしろさってなんだろう？～講師の活動紹介

* 深澤孝史

事例1：おべんとう画用紙

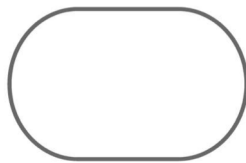
<http://obentogayoshi.tumblr.com>

発達に遅れのある幼児のための通所施設「根洗学園」（静岡県浜松市）で生まれた親と子の表現プログラム。

子どもが描いたおべんとうの絵をもとに親が実際におべんとうをつくります。



おべんとう画用紙



お弁当画用紙の枠



事例2：三省ハウスごらく（越後妻有アートトリエンナーレ）



2011 年 7 月 30 日の三省ハウスでの林間学校はまさに逆境の連続だった。前日から続く大雨の影響で関係者は三省ハウスで軟禁状態となった。ワークショップ担当の小沢剛さんは道が途絶え到着できず、代替りのプログラムを考える僕は朝からハチに刺された。林間学校の参加者の半分は福島、宮城で被災した子どもたちだったが、三省ハウス自体が近隣の住民の避難所に指定される。悩む僕は、目の前にあることで遊びを考える子どもたちの姿勢を見て、みんなで校舎全体を「スゴロクハウス」に変えてしまおうと思いついた。それぞれのマス目にみんなが思いつく遊びやハッピーになれる言葉などを書き込んで、外にはでられないけれども今いる場所を思いっきり楽しめる場所にしようと思った。小沢さんは結局来られなかったが、彼が用意していた、紙袋で衣装をつくるワークショップもコラボした。大人も子どもも紙袋だけで面白い格好に変身して、スゴロクをしながら不思議な格好の人たちが校舎中を駆けまわった。気がつくと空は晴れていた。

事例3：とくいの銀行

nanatsuboshi.tokuinobank.net



とくいの銀行 山口

お金のかわりに自分のとくいをあずけて、あずけた人は他の人があずけたとくいをひきだすことができる銀行を営業する。

*即興からめーる団（赤羽美希+正木恵子）

事例1：東京都港区ふれあいアート事業「つくってうたうよ、オモシロウタ！」（港区主催）

保育園の5歳児さんとうた作りや楽器で音遊びをするワークショップ。

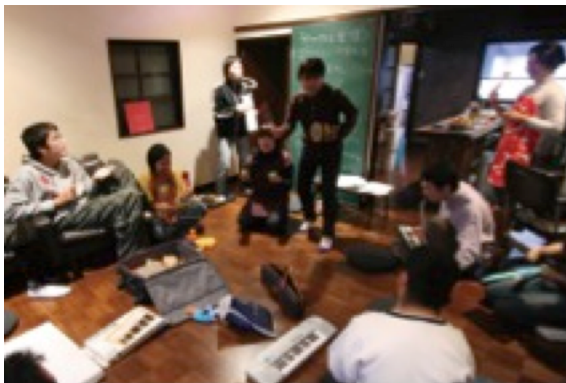
子どもたちから口々に発せられる言葉やメロディーをつないでうたを作っていく。

これまでに創作したものには、子どもたちが作った架空のヒーロー「電池マン」が登場するうた、動物列車のうた、保育園での思い出についてのうたなど様々なテーマがある。

事例2：うたの住む家プロジェクト（即興からめーる団主催、2007年～）

ワークショップを通して、様々な人と「うた」を共同作曲する活動。

赤ちゃん、学生さん、商店街の理事長さん、障害のある人ない人など、様々な人と共同で100曲以上のうたを作ってきた。また、作ったうたをコンサートや地域のイベントでワークショップ参加者とともに発表している。



うたづくりの様子



打ち水イベントでのライブ

2.京都マンボのプロモーションビデオをつくろう！

(1) みんなの「京都」を描こう！

「こんなものが京都にあったらいいなあ」を描きましょう。

(2) みんなだけのオリジナルソング「京都マンボ」を作ったうたおう！

みんなの思う「京都」についての歌詞をマンボのリズムにのせてうたってみましょう。

(3) 美術×音楽でみんなの思う京都のプロモーションビデオを撮影！

さてさて、どんな作品ができるでしょう？

《講師プロフィール》

深見友紀子（ふかみゆきこ）



東京医科歯科大学中退、東京藝術大学楽理科卒、同大学院音楽教育専攻修了。富山大学教育学部助教授を経て、京都女子大学発達教育学部児童学科教授。「深見友紀子ミュージック・ラボ」（東京・早稲田）代表。「電子楽器の教育的可能性～メディア論からのアプローチ」「子どもの弾き歌いベスト 50」など著書多数。平成26～28年度科学研究費補助金 基盤研究C「小学校におけるICT音楽学習環境の整備と『21世紀型音楽室』構想」他、これまで6件の科研費研究で代表をつとめる。児童学科音楽隊活動や児童養護施設へのピアノレスナー派遣にも取り組んでいる。

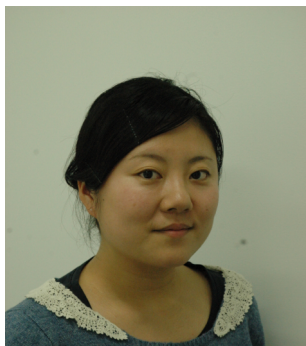
赤羽美希（あかはねみき）



音楽家。奈良女子大学文学部人間行動科学科教育文化情報学専攻卒業。東京藝術大学大学院音楽研究科応用音楽学（音楽療法）修了。

ピアノ、鍵盤ハーモニカ、アイリッシュ・ハープを演奏。鍵盤ハーモニカやピアノのための楽曲、うた、ダンスや演劇向けの作曲にも携わる。また、ザウルスの音楽ワークショップ、うたの住む家プロジェクトなどの音楽創作プロジェクトの企画・ワークショップファシリテートを行うほか、教育活動、研究活動も行うなど、実践、研究、教育の幅広い分野で精力的に活動している。即興からめーる団（赤羽美希＋正木恵子）、シュトカプーメンバー。東京音楽大学、和洋女子大学非常勤講師。

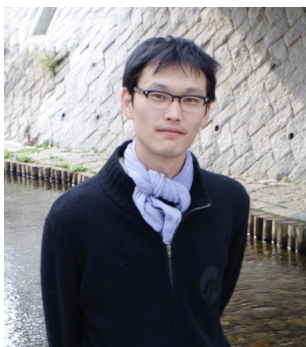
正木恵子（まさきけいこ）



打楽器奏者。12歳で打楽器を始める。愛知県名古屋市長菊里高校音楽科を経て、日本大学芸術学部音楽学科打楽器専攻卒業。

現在、フリーパーカッショニストとして打楽器やマリimbaの演奏・指導に携わるほか、劇音楽の生演奏やコンテンポラリーダンスとの共演、即興演奏、音楽ワークショップの企画・ファシリテートなど幅広い音楽活動に取り組んでいる。また、赤羽美希氏との音楽ユニット「即興からめーる団」でも精力的に活動している。若手打楽器奏者3人組による打楽器アンサンブル「どってん博物館」メンバー。おもちゃ楽器バンド「moccha」メンバー。

深澤孝史（ふかさわたかふみ）



美術家。1984年山梨県生まれ。2008年に鈴木一郎太とともにNPO法人クリエイティブサポートレッツにて「たけし文化センター」を企画。2010年個展「うんこふみふみたかふみ文化センター」。2011年より取手アートプロジェクトにて、お金のかわりに自身のとくいなことを運用する《とくいの銀行》を開始。2012年に浜松の中心市街地にて、様々な場や活動を障害物にしたイベント「しょうかいびつマラソン2012」（浜松）を企画。また、越後妻有大地の芸術祭にて、非常事態を表現活動に翻訳する「非常美術倉庫」を制作。2013年、山口情報芸術センター10周年記念祭にて、とくいの銀行を運営しつつ、商店街のまちづくりを劇的行った《とくいの銀行 山口》。2014年、発達のゆるやかな幼児の通所施設「根洗学園」で行ったプログラムの展覧会「おべんとう画用紙」、土で現像する写真スタジオ《photoground》（めぐりアート静岡、2014）を制作、また札幌国際芸術祭2014にて《とくいの銀行 札幌》を展開。

- 2014 年京都女子大学児童学科前期公開講座 -

子どもたちと表現を楽しもう

講師：深見友紀子（京都女子大学教授）

赤羽美希（音楽家）

正木恵子（打楽器奏者）

深澤孝史（美術家）

日時：平成 26 年 8 月 3 日（日）14:00～16:00

会場：京都女子大学 U 校舎 U002・U004 教室